



平成26年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2014/5/2 現在

【経済】

第1問（22点）

I

問1 C 問2 C 問3 A 問4 A 問5 B 問6 C 問7 C 問8 B
問9 C

II

問1 D 問2 B 問3 D

III

問1 B 問2 B

第2問（35点）

I

問1 C 問2 B 問3 D 問4 D 問5 D 問6 C 問7 B 問8 A
問9 C 問10 A 問11 B

II

問1 C 問2 A 問3 B

III

問1 D 問2 D 問3 B

IV

問1 D 問2 B 問3 D

第3問（15点）

問1 B 問2 C 問3 D 問4 C 問5 A 問6 C 問7 A 問8 B
問9 D 問10 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第4問（18点）

I

問1 B 問2 D 問3 C 問4 B

II

問1 B 問2 E 問3 A

III

問1 A 問2 A 問3 D

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2014 証券アナリスト 1 次試験（春）

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、昨年の春試験をそのまま受け継いだものであり、また、出題レベルも昨年と同じように標準的なものでした。とくに、多くの受験者にとって予期していない出題内容として、第 2 問Ⅱのケインズ型消費関数に関する計算問題を挙げることができますが、日頃、基本理論の理解を重視している方々にとっては、十分に得点が可能な問題であったと思われます。試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、これら基本問題から確実に得点できることが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見えますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の出題数は、第 1 問 14 題（昨年の春試験と同じです。）、第 2 問 20 題（昨年の春試験と同じです。）、第 3 問 10 題（昨年の春試験よりも 1 問増加しています。）、第 4 問 10 題（昨年の春試験と同じです。）と、全部で 54 題でした（昨年の春試験よりも 1 問増加しています）。また、各大問の配点比率は、第 1 問 22 点、第 2 問 35 点、第 3 問 15 点、第 4 問 18 点と、昨年春試験と比較して、第 1 問の配点が 2 点減少し、その代わり、第 3 問の配点が 2 点増加しています（満点は 90 点です）。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（余暇時間と労働時間の選択など）、企業行動（等生産量曲線、独占企業など）、完全競争市場（需要曲線と供給曲線、価格受容者、価格の調整過程、余剰分析、長期均衡など）、市場の失敗（公共財、外部効果、費用逡減産業など）、状態価格、ゲーム理論、情報の経済学、不確実性下の資産選択などから出題されています。なお、計算問題の内容は、昨年とほぼ同じものとなっています。

第 2 問（マクロ経済全般）では、国民経済計算、45 度線モデル（乗数効果）、貨幣乗数、IS-LM 分析、AD-AS 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数）、フィッシャー方程式、インフレとデフレの効果、フィリップス曲線、成長会計、貯蓄投資バランスなど、過去に出題された内容に沿った問題が多く出題されています。

第 3 問（金融経済）では、金融市場と金融機関、日本の銀行制度、日本銀行と金融政策、財政事情と財政政策の実効性など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、国際収支の内訳（ただし、2014 年 1 月の国際収支関連統計の見直し前の制度にもとづいています。）、貯蓄投資バランスと経常収支の関係、外国為替市場への介入、ドルの直先総合持高、購買力平価・実質為替レート・カバーなし金利平価成立のもとでの予想為替レートの計算問題、金融政策と為替レート、といった、過去の出題内容と同じような問題が中心となっています。

以上